

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	社会「災害からわたしたちを守る政治」
学年	小学校第6学年
目標	プログラミングの体験を通して、被災した人々の悩みや願いを捉え、災害に強いまちづくりのためにできることを考え表現できる。
教材タイプ	ビジュアル言語+制御教材
使用教材	LEGO WEDO2.0
環境	児童用タブレット PC 10台を使用
都道府県	神奈川県相模原市
実施校	相模原市立九沢小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>1 事前の準備 この授業は、被災者の人々の悩みや願いと、【自助】【共助】【公助】について学習をしておきます。自動化する「課題」の設定のときは、次の NHK for school などの映像資料等も適切に活用すると効果が高まります。</p> <p>2 プログラミングの時間の流れ</p> <p>1 めあてを確認しよう 「プログラミングを通して、被災した人々の悩みや願いを捉え、災害に強いまちづくりのためにできることを考えて表現しよう。」</p> <p>2 課題を確認しよう 「アイデアのモデルをプログラミングしながらつくろう。」 各グループのつくるものを簡単に発表し、共有させてから始める。このとき、【自助】【共助】【公助】どの視点から考えたアイデアなのかも説明させる。</p> <p>3 設計図をもとに災害に関わって自動化するとよいもののモデルをつくろう ○A コンピュータを使ってプログラムをつくろう。 ○B 機械のモデルの本体をつくろう。 ○C 機械のモデルの動きを確認して、改善、修正しよう。</p> <p>4 つくったモデルを紹介しあおう ※「①どのような課題を」「②どのような働きをする機械で解決し」「③使う人にとって何が良いのか」に焦点を当てて発表しあいましょう。</p> <p>5 まとめ 学習を振り返り、今日気付いたことを確認する。 □今日の学習を通して、「災害に強いまちづくり」に必要なことは何だと考えますか。</p>
成果と課題	【自助】【共助】【公助】それぞれの視点から考えることで、様々な考えを出し、自分の考えをプログラミングを通して発表することができた。